

- 松浪秀太郎・大塚 勲・荒牧英統・直海俊一郎・直海昌二郎, 1974. 熊本県のコムツキムシについて. 熊本昆虫同好会報, 19(3): 1-19.
- 中島英貴, 1997. 熊本県産コムツキムシの採集記録. 熊本昆虫同好会報, 43(2): 9-11.
- 中島英貴, 2000. 熊本県産コムツキムシの採集記録 (3). 熊本昆虫同好会報, 45(2): 9-14.
- 中島英貴, 2001. 熊本県産コムツキムシの採集記録 (4). 熊本昆虫同好会報, 47(2): 1-4.
- 大平仁夫, 1988. 西村五郎氏採集の九州産のコムツキムシ. 北九州の昆虫, 35(3): 158-159.
- 大平仁夫, 2007. 九州に産するコムツキムシ類の若干種の記録. Korasana, (75): 24-26.
- 大平仁夫, 2009. 九州に産するコムツキムシ類の若干種の記録 (2). Korasana, (77): 37-38.
- 大平仁夫, 2011. 九州に産するコムツキムシ若干種の記録 (3). Korasana, (79): 15-18.
- 大塚 勲, 1996. 熊本県のコムツキムシに関する資料 (6). 熊本昆虫同好会報, 41(3): 1-6.
- 大塚 勲, 1997. 熊本県のコムツキムシに関する資料 (7). 熊本昆虫同好会報, 43(2): 1-7.
- 大塚 勲, 1999. 熊本県のコムツキムシに関する資料 (8). 熊本昆虫同好会報, 44(2): 5-9.
- 大塚 勲, 2001. 熊本県のコムツキムシに関する資料 (11). 熊本昆虫同好会報, 47(2): 5-9.
- 大塚 勲, 2003. 熊本県のコムツキムシに関する資料 (12). 熊本昆虫同好会報, 49(2): 23-27.
- 大塚 勲, 2005. 熊本県のコムツキムシに関する資料 (13). 熊本昆虫同好会報, 51(2): 9-12.
- 大塚 勲・直海俊一郎, 1977. 熊本県のコムツキムシに関する資料 (1). 熊本昆虫同好会報, 23(1): 1-9.
- 大塚 勲・荒牧英統・吉崎一章, 1979. 熊本県のコムツキムシに関する資料 (2). 熊本昆虫同好会報, 24(3): 1-14.
- 大塚 勲・荒牧英統・吉崎一章, 1981. 熊本県のコムツキムシに関する資料 (3). 熊本昆虫同好会報, 26(2): 1-12.
- 大塚 勲・荒牧英統・吉崎一章, 1985. 熊本県のコムツキムシに関する資料 (4). 熊本昆虫同好会報, 31(2): 1-16.
- 尾崎俊寛・佐藤福男・沼田 仁・加納彦一, 2006. 秋田県のコムツキムシ. 秋田自然史研究会, 74pp.
- Suzuki, W., 1999. Catalogue of the Family Elateridae (Coleoptera) of Taiwan. Miscellaneous Reports of the Hiwa Museum for Natural History, (38): 1-348.
- 高倉康男, 1970. 鷹巣山の甲虫類 (1). 北九州の昆虫, 16(3): 65-72.
- 堤内雄二, 2000. 九州未記録のコムツキムシ 5 種. 月刊むし, (356): 40-41.
- 堤内雄二, 2006. 大分県のコムツキムシの記録 (1). 二豊のむし, (44): 1-22.
- 堤内雄二, 2008. 九州本土でフタキボシカネコムツキを採集. 月刊むし, (444): 44.
- 堤内雄二, 2010. 大分県のコムツキムシの記録 (2). 二豊のむし, (48): 72-98.
- 堤内雄二, 2012a. 大分県のコムツキムシの記録 (3). 二豊のむし, (50): 1-10.
- 堤内雄二, 2012b. 九州未記録のクリイロツヤハダコムツキ. 月刊むし, (502): 5.

(有本晃一 812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1 九州大学大学院生物資源環境科学府昆虫学教室)

## 【短報】日本産カミキリムシの興味ある記録

筆者らは、(独) 農業環境技術研究所・昆虫標本館所蔵の藤村コレクションを整理調査する中で、記録に残すべき興味ある標本を見出したので報告する。

### 1. 1948年に広島市で採集されていたツシマサビカミキリ

1948年5月に広島市で採集されたツシマサビカミキリ *Ropica tsushimensis* Hayashi, 1972 が見出された (同定ラベルは“タイリクフタホシサビカミキリ/*Ropica dorsalis*/Schwarzer, 1925”となっていた)。

ツシマサビカミキリは対馬特産種であったが、最近では瀬戸内海の小豆島や岡山県の牛窓町および犬島、前島、長崎県の五島列島からも記録されている (楨原, 2007)。対馬に船で行った人なら分かると思うが、港の岸壁には薪が積み上げられている。この薪は船で各地に運ばれていくのである。

かつて対馬から福岡には頻りに材が運ばれていたようで、その材と共に各種カミキリムシが移動していたと思われる。実際に、1938～1946年と1956～1959年に福岡市の燃料店ではハラアコブカミキリ *Moechotypa diphysis* (Pascoe, 1871) が採れていた (楨原, 1984)。また、同市の筥崎宮では1954年にチョウセンシロカミキリ *Olenecamptus riparius* Danilevsky, 2011 が採れたこともあった (楨原, 1976; *O. subobliteratus* Pic, 1923 として記録)。

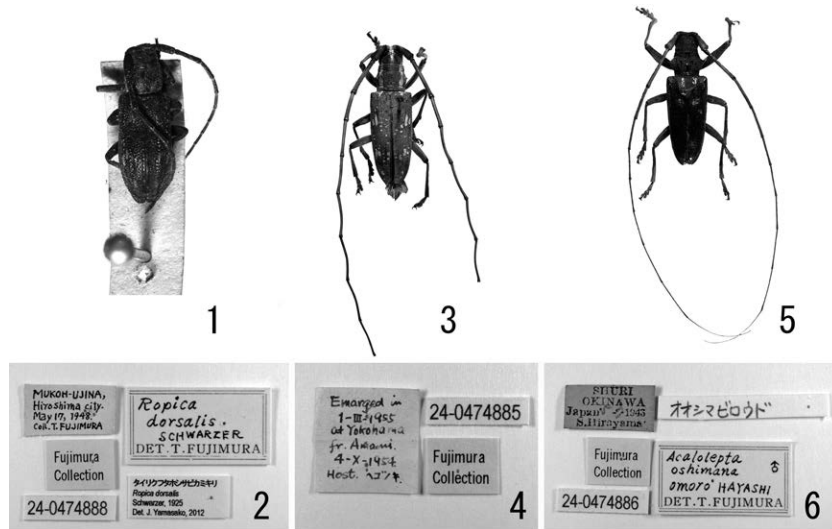
五島列島や瀬戸内海地域は水産業が盛んで、対馬とも頻りに交流があったと推測される。1948年に採集されていたということは、それ以前に対馬より広島市に侵入していたことに疑いの余地はない。広島市に原爆が投下されたのが1945年8月であることを考えると、1946～1948年の間に対馬から広島市にツシマサビカミキリの幼虫の入った薪が持ち込まれたと考えるのが妥当だろう。

#### 採集データ

1♂ (所蔵標本番号 24-0474888; Figs. 1, 2), “MUKOH-UJINA/Hiroshima city./May 17, 1948./Coll. T. FUJIMURA”.

### 2. シダ植物より羽化したアマミキボシカミキリ

キボシカミキリ *Psacotha hilaris* (Pascoe, 1857) は生木加害でクワ科植物を主な食樹としている。クワ科以外ではムクノキやウラボシ科エノキなども本種の食樹として知られている (大林・新里, 2007)。藤村コレクションを整理中、シダ植物のヘゴノキ *Cyathea spinulosa* (ヘゴ科) より羽化したアマミキボシカミキリ *Psacotha hilaris maculata* Breuning,



Figs. 1–6. Specimens (1, 3, 5) and labels for each specimen (2, 4, 6) of Fujimura collection. — 1, 2, *Ropica tsushimensis* from Hiroshima Pref., Honshu; 3, 4, *Psacotheta hilaris maculata* adult emerged from *Cyathea spinulosa* (Cyatheaceae); 5, 6, *Monochamus grandis* from Shuri, Okinawajima Is., the Ryukyus.

1954の標本を見出した。日本産のカミキリムシでシダ植物を加害した例はこれまで報告されていない(小島・中村, 2011)ことから, 非常に珍しい例と思い, ここに報告する。

#### 採集データ

1♂(所蔵昆虫標本番号 21-0474885), “Emerged in I-III-1955/at Yokohama/fr. Amami./4-X-1954/Host. ヘゴノキ”。

### 3. 沖縄で採集されていたヒゲナガカミキリ

沖縄島で採集されていたヒゲナガカミキリ *Monochamus (Monochamus) grandis* Waterhouse, 1881が見出された。本来, 本種は国後島および北海道, 本州, 四国, 九州に分布している(大林・新里, 2007)。沖縄産の標本のデータは下記の通りである。なお, 当該標本はオモロピロウドカミキリ *Acalolepta oshimana omoro* Hayashi, 1963と同定されていた。

#### 採集データ

1♂(所蔵昆虫標本番号 24-0474886; Figs. 1, 2), “SHURI/OKINAWA/Japan 5-7-1943/S.Hirayama”。

本種の食樹としては, マツ科のモミ属やトウヒ属, ツガ属, アカマツ, カラマツなどが知られている。そして, これらの樹種の中で工事に最も多く使われるのはアカマツである。採集された1943年は第二次世界大戦中である。このような時期にヒゲナガカミキリが沖縄島南部の首里で採集されたことは, 本種が主に1年1世代で, 盛夏に産卵して秋には蛹室を作るために材入することを考え併せると, 1942年秋から1943年夏の初めまでに本

種の穿孔した材が日本本土から沖縄島に持ち込まれた可能性が高い。

1942年6月に日本軍はミッドウェイ海戦で敗れ, 1943年から沖縄を軍事基地とする計画の元に秘密飛行場の建設(<http://ja.wikipedia.org/wiki/沖縄戦>), そして, 1944年12月から首里城の下に地下壕を掘り, 1945年1月より陸軍第32総司令部を置くようになった(<http://ja.wikipedia.org/wiki/首里城>)。本種が首里で採集されていることを考えると, 内地からのアカマツ材が坑木として軍事施設建設に使われたと考えるのが妥当であろう。何れにしても, 太平洋戦争末期の物流を考える上で貴重な標本である。戦時中にも関わらず, このヒゲナガカミキリを採集された故・平山修次郎氏に敬意を表する。

#### 引用文献

- 小島圭三・中村慎吾, 2011. 日本産カミキリムシ食樹総目録(改訂増補版). 比叟科学教育振興会, 庄原. 506 pp.  
 榎原 寛, 1976. 日本本土未記録のカミキリムシ. *Pulex*, (59): 247–248.  
 榎原 寛, 1984. 解説 樹木の主要カミキリムシ(11) シイタケほだ木のカミキリ類. *森林防疫*, 33(9): 13–14.  
 大林延夫・新里達也編, 2007. 日本産カミキリムシ. 東海大学出版会, 東京. 818 pp., 78 pls.

(榎原 寛 298-0002 いすみ市日在 2033-5)

(吉武 啓 305-8604 つくば市観音台 3-1-3

(独) 農業環境技術研究所)